

日頃から備える「防災まち歩き」

防災において「地域コミュニティ」はとても重要な役割を担っています。平常時における定期的な防災訓練の実施、災害時には発生直後の安否確認、初期救助活動や情報伝達、避難所運営などを地域住民で行う必要があります。しかし、国土交通省が実施した近所付き合ひについての調査によると、「全く付き合っていない」と答えた人が36%だったことから、地域コミュニティはかなり衰退していることがわかっています。

今回、メディアスエフエムでは、東海市・知多市のコミュニティと連携し、地域の皆さんと一緒にまち歩きをすることで、災害における防災ポイントを見つける企画を実施しました。



地域コミュニティとつくる オリジナル防災マップ

今回連携したのは、東海市緑陽コミュニティを中心に活動する団体「日曜日のパパ」、そして、知多市八幡コミュニティの皆さんです。

東海市の緑陽コミュニティでは、昭和34年9月26日に発生した「伊勢湾台風」で多くの方が犠牲になっています。名和小学校には、伊勢湾台風により命を失った名和小学校児童25名、上野中学校生徒4名、合計29名の慰霊の塔「友情の塔」がありま

地域コミュニティとは

同じ地域で生活し、交流する集団のことを指します。住民同士の信頼関係を基盤に成り立ち、情報共有や対話を通じて協力や助け合いが生まれることが特徴です。東海市には12、知多市には10のコミュニティがあり、いずれも子どもや高齢者が行動できる範囲の「小学校区」を単位としています。また、小学校区単位の中には複数の「町内会」も存在します。

す。台風による浸水・大地震による津波が懸念される地域で、過去災害の風化を防ぐ取り組みがされているため、防災への意識が高い地域でもあります。

また、知多市北西部にある13の字・町内会で組織する知多市八幡コミュニティは、昭和60年に設立。人口は1万3千人を超えていて、知多市で一番大きなコミュニティです。土砂災害警戒区域やため池による浸水の懸念もあり、情報共有や対策などが課題となっています。今回はコミュニティ会長をはじめ、防災減災部会長、町内会長の協力のもとで、連携企画が実現しました。

いつも見ている、通っている地元の道も「防災視点」で歩いてみると、様々な発見があります。今回のまち歩き企画を参考に、家族や近所同士で「防災さんぽ」をしてみませんか。自分たちが暮らす地域の特徴を知り身近なところから防災を考えることが、いざという時の判断力や行動力に繋がっていきます。今回の企画にご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。



知多市 八幡コミュニティ

歴史ある知多市最大のコミュニティ

八幡地区の人口は、令和8年3月時点で13,224人(6079世帯)で、コミュニティ会員数は3,681人です。4月にはウォーキングデー、5月は総会、6月は防災(減災)倉庫の点検、7月に盆踊り大会、9月にスポーツフェスティバル、11月に八幡ふるさと検定、親子三世代グラウンドゴルフ大会、12月に防災訓練と、地域住民を巻き込んだ様々なイベントを開催して交流を深めています。

令和7年の12月に開催したコミュニティ防災訓練では、子どもの命と避難行動要支援者の命を一人でも多く守ることを目的に、「ひなんさんぽ」を実施。要支援者37名とサポート者49名、中学生ボランティアも参加して災害時の避難行動を確認しました。



会長は「災害に直面した際、顔見知りのおじさんやおばさんが一緒に避難している姿を見て、あの人たちにについていこうと思ってもらえれば、それだけで命が一つ救える」と考えており、日頃からコミュニケーションを大切にしています。



東海市 緑陽コミュニティ

持続可能なより良い地域の実現を目指して

緑陽コミュニティは、昭和53年に設立された東海市最初のコミュニティで、市の最北部に位置しています。緑陽コミュニティセンターを活動拠点とし、いきいき緑陽スポーツ広場や新春緑陽広場、自主防災訓練などの活動を通し、住民同士の交流を密にしています。令和8年度は、コミュニティ会長を筆頭に、総務企画部・文化体育部・環境美化部・広報部・防犯安全部・厚生福祉部がそれぞれ積極的に活動します。

緑陽コミュニティを主な活動場所とした保護者でつくるボランティア団体「日曜日のパパ」は、父親だからこそできる「子どもたちへ楽しかったをプレゼント♪」をテーマに、地域・学校支援活動や環境整備支援などを行っています。

これまでに、地域の夏祭りやプロジェクションマッピング花火を企画したり、小学校を舞台とした「逃走中」を開催したり。子どもたちがワクワクする企画を届けています。その活動は、メディアにも取り上げられています。



連携していただける コミュニティ募集中!

(放送エリアである東海市・知多市限定)

メディアスエフエムのメンバーと一緒に、まち歩きをしてオリジナル防災マップを作っていただけのコミュニティを募集しています! 地域の防災力を高めたい、住み慣れたまちの安全安心を守りたいという皆様、ぜひお問い合わせください。



お問合せは
こちらから



【発行】FM83.4
メディアスエフエム

一緒に歩いてくれたのは…

「日曜日のパパ」企画部 新井良幸さん

慣れ親しんだ地域でも、防災・減災の視点を持って実際に歩いてみることで、普段とは異なる気づきが得られることを改めて実感できた素晴らしい企画でした。また、近隣の方々と気軽に意見交換ができるような交流の機会を増やしていくことも、今後の課題だと感じました。



防災士・アンダーポイント増野と歩いて発見!!

このまちの安全安心ポイント

東海市・知多市から配布されているハザードマップと照らし合わせ、危険箇所だけでなく災害時の安心につながるポイントも探しました。

東海市 緑陽コミュニティ編



地図データ：http://www.openstreetmap.org/copyright

災害時徒歩帰宅支援ステーション

愛知県では、大規模地震発生時に、多くの人が一斉に帰宅を開始することによる二次災害の発生や、応急活動の妨げとなることの防止、帰宅困難者を安全に帰宅させるための取り組みを行っています。東海市では、巨大地震の発生などで公共交通機関が停止した場合に、徒歩での帰宅を案内するための「徒歩帰宅支援マップ」を作成しています。トイレ・水道水などの支援を受けられる「徒歩帰宅支援ステーション」には、コンビニエンスストアやガソリンスタンド、新聞販売店、郵便局などが登録されています。いざという時のために事前に確認しておきましょう。



check
C

東海市河川水位等情報提供サービス

今回のまち歩き出発地点となった「緑陽コミュニティセンター」は、東海市雨量情報の北部雨量観測地点となっています。東海市のホームページでこの地点の10分毎の雨量がグラフで確認できます。東海市では河川カメラで水位情報を見ることができ、「河川水位等情報提供サービス」を提供しています。今回見つけた土留木橋の水位計も、東海市のホームページからいつでも確認できます。他にも、南柴田樋門、山東橋や木場中橋、順見橋の状況も確認できます。大雨の際は実際に川へ見に行かず、ライブカメラで水位を確認するようにしましょう。

check
B

名和小「友情の塔の日の会」

昭和34年9月26日、東海地方を襲った伊勢湾台風は、約5千名の死者・行方不明者を出す大災害となりました。東海市名和地区でも、建物の損壊や大勢の命が犠牲となり、名和小学校児童25名と上野中学校生徒4名が亡くなっています。名和小学校にある「友情の塔」は、亡くなった29名の慰霊塔として昭和36年9月25日に完成しました。毎年9月26日には「この災害を忘れないように」「亡くなった29名が見守る中で、仲良く元氣よく生活する」ということを願い黙祷・献花などが行われています。



check
D

私たちは「友情の塔」から災害の教訓を学んでいます。塔には、伊勢湾台風で亡くなった先輩たちの名前が刻まれていて辛い思いをした人が多かったに違いないと感じました。災害に備えて日頃から家族と避難場所を確認したり防災グッズを備えたりすることが命を守る方法だと考えます。



名和小学校
児童会長
山本百花さん



一緒に歩いてくれたのは…

八幡コミュニティ防災減災部長 浅井 豊 さん

普段、コミュニティの防災減災活動は、決められた事業をただこなすだけで、深く掘り下げることはありませんでした。今回の企画で八幡地区内の「土砂災害警戒区域」と「警戒すべきため池」を警戒の頭で改めて見ることができました。



地域防災専門家からのひと言

地域の防災・減災においては、まず個人でできる範囲の備えを実施することがとても大切です。能登半島地震では、家具の転倒防止により、約100名の方が助かっており、その重要性が定量的にわかりました。しかし、家具の転倒防止や住宅の耐震化の備えはまだ途上です。個人の活動には凹凸があるため、それぞれの備えをしっかりと向上するためには地域コミュニティの力が不可欠です。地域コミュニティの活動を公が支えることで、地域の災害文化を共に創ることになります。地域コミュニティの活動を通して、災害文化を皆で醸成し、個人の命や生活を守ることが南海トラフ地震等の災害の備えとして重要です。



名古屋大学
減災連携研究センター
准教授 平山修久さん



名古屋大学減災館

【住所】名古屋市中種区不老町 【電話番号】052-789-3468
【営業時間】13:00～16:00（入館は15:30まで）
【定休日】日～火曜日、第2・最終土曜日、祝日
年末年始、年度末・年度始、お盆（原則）

メディアスエフエム ディレクター後記 “つながりの重要性”

“地域の皆さんと一緒に作りたい”という思いから始まった今回の企画。当日は、たくさんの驚きがありました。生放送を聴いて駆けつけてくださった地域の方が私たちと一緒に歩き始めたり、中継先の名和小学校では児童が一生懸命、友情の塔を説明してくれたり…。台本にない、放送にはのらない感動がありました。それも全て、地域を想う気持ちと、地域に根付く人と人とのつながりが生んだものだと感じました。また、事前準備から本番まで親身にアドバイスをくださり、地域のお仲間の声も届けてくださった新井さんと浅井さん。お二人の姿勢に、私が想像していた何倍も地域のことを愛し、大切にされているのを感じました。本企画で、私たちは地域の防災ラジオとして日頃から地域の皆さんと“つながり”、共に考え、体験し、高め合いたいと、改めて強く思いました。メディアスエフエムが、いざという時の「共助」の力につながるよう、これからも精進して参ります。

知っていますか？ 公衆電話の使い方

大規模な災害が起こると、スマートフォンや固定電話が使えなくなることがあります。公衆電話は、通信制限を受けにくく、停電でも使えるため、いざという時にとても頼りになります。携帯電話の普及で数は随分と減りましたが、知多市には令和8年7月現在、20台余りの公衆電話が設置されています。今回見つけた公衆電話もそのうちのひとつで、八幡地区で唯一の屋外公衆電話です。公衆電話を使ったことがない世代も増えてきました。いざという時のために、使い方をマスターしておくとうれしいです。

公衆電話の
使い方を覚えよう！



- ① 受話器を取る
- ② お金（10円玉か100円玉）
またはテレホンカードを入れる
- ③ 電話番号を押す
- ④ 通話終了後、受話器を戻す
※停電時はテレホンカードは使えません

ため池ハザードマップ

ため池の決壊による浸水被害は、河川氾濫などに比べて決壊してから被害が発生するまでの時間が短いとされています。ため池ハザードマップは、万一がため池の堤体が決壊した場合に、住宅などに影響のある農業用ため池について想定される最大の浸水区域、深さなどを示したものです。今回訪れた「筒岡（つつおか）池」のハザードマップは、知多市のホームページで公開されています。生活圏内に浸水被害がないか、確認してみましょう。



// いざという時に役立つ!! //

メディアスエフエムは

東海市と知多市の防災ラジオ

**【お問合せ・取材依頼】**

メディアスエフエムのホームページにある「取材依頼」ボタンからお進みください
(下記二次元コードからも繋がります)

メディアスエフエム



防災士の資格を持つ
パーソナリティが
8名在籍しています！

What's メディアスエフエム

周波数は FM 83.4MHz

2007年10月開局。知多メディアスネットワークが運営するコミュニティFMラジオ局。東海市と知多市をエリアとし、防災ラジオの役割を担っています。安全安心情報を中心に、地域のイベントや生活に関する話題も毎日お届け！無料インターネット放送も実施しています。



メディアスエフエムの防災に関する取り組み

1



いざという時は 行政連携で災害情報を発信

災害などの緊急時には、通常の放送内容を変更し、市と連携して地域の災害情報、避難情報などをお届けします。

全国瞬時警報システム(Jアラート)で配信される地震・津波などの緊急情報や災害情報・避難情報などを市民の皆様にお知らせする役割も担っています。

2



毎月17日は 防災企画「おむすびDAY」

阪神淡路大震災で炊き出しが行われた際に「おむすび」が多くの人の命を救ったことから、1月17日は「おむすびの日」とされています。

メディアスエフエムでは、縁を“むすぶ”という意味も込めて、毎月17日を「おむすびDAY」に！毎月テーマを設けて、防災について学び、触れる機会としています。

3



3月11日・9月1日は 特別企画「防災DAY」

東日本大震災の発生日である3月11日と、防災の日である9月11日は、毎年「防災デー」と題し、一日を通して防災に関する番組を放送します。東海市の姉妹都市・岩手県釜石市の震災伝承や、今後来るといわれている南海トラフ地震のこの地域被害予想、この地域の防災に関する最新情報などをお届けしています。

メディアス発 おすすめの防災情報ツール



インターネット放送アプリ

スマートフォンやタブレットで番組を聴くことができます。トップ画面では、このエリアの気象情報をはじめ、緊急時の循環バスの運行状況、公共施設の状況、避難所の解説なども表示します。番組へのメッセージもアプリからだと簡単♪



安全安心メルマガ

知多半島の安全安心情報をメールマガジンとしてリアルタイムに発信！地域の防災情報・防犯情報・気象警報・地震速報など選択した内容のメールが受け取れます。



防災チャンネル (地デジ11ch)

定点カメラの映像を通して24時間地域を見守ります。平常時は、道路や鉄道の状況、気象情報などを表示。災害時は、知多半島に特化した災害・防災情報をお届けします。

